

仏の歩み 作品 115

作曲：近藤浩平

作曲：2010年6月11日

初演：2010年6月18日 東京文化会館4F 音楽鑑賞室

「近況」 自作自演

用意するもの

- ① ネパールまたはチベットの鉦、紐で2枚が繋がってあるもの2セット。
2セットは大きさが異なるもの。また各セットになったもできるだけ2枚の鉦の大きさが異なったもの。
4枚の鉦は番号を付けておく。一つのセットは鉦1、鉦2とし、もう一つのセットは鉦3、鉦4とする。テープなどで、番号がわかる目印を付けると良い。



② 鉦のセット及び複数の鈴がぶら下げられる折りたたみ式譜面台 2 台（または同様の機能をもつ台を 2 つ）

ただし、ぶら下げた鉦と鉦の間隔が自由に調整できるもの。

2 台の譜面台を、ここでは譜面台 1、譜面台 2 と呼ぶことにする。

初演では、写真のような折りたたみ式譜面台を用いた。



③ ボルネオの首からぶら下げることのできる袋。または、同様の形状の布等の袋で首からぶら下げられるもの。

袋は、上記の鉦 2 セットが入る大きさ。



④適当な鈴いくつか。熊鈴やギリシャの鈴やカウベルの類、風鈴など、吊り下げられるものを用意する。風に吹かれると揺れて鳴るものであることが必須。ただし、西洋音楽の演奏会用楽器的な性格が強い鈴は避ける。



⑤ぶら下げることが可能で、風に吹かれると揺れる装飾物。
(初演の際は布製の小さな魚をぶらさげた)



⑥団扇



- ⑦机などの木製の台（木製の机が良い。）
- ⑧新聞紙、あるいは薄い雑誌など。机の上に敷いて鉦の消音に使う。
- ⑨箸（割り箸ではなく、しっかりした硬い重さのある木製のもの。金属製の箸でも良い）。撥として使う。
- ⑩食事用のフォーク（金属製の大きめのもの）。撥として使う。
- ⑪食事用のナイフ（金属製の大きめのもの）。撥として使う。
- ⑫食事用のスプーン（金属製または木製の大きめのもの）。撥として使う。
- ⑬しゃもじ（木製のもの）、撥として使う。

セッティング

配置；

■譜面台 1

ステージ中央に置く。譜面を置く部分を半分ほど開いた状態にする。

■譜面台 2

譜面台 1 から数メートル離れたところに譜面台 2 を置く。

聴衆から見て方向が変わる程度の距離で、奏者がすぐに走って往復できる 5 m 程度を推奨。

譜面を置く部分を半分ほど開いた状態にする。

■机

譜面台 1 の隣に設置する。

机の中央部分だけに折りたたんだ新聞紙（または薄い雑誌など）を敷く。



準備：

- 譜面台 1 には、用意した鈴の類を複数吊り下げておく。
- 風に揺れる装飾物を譜面台 1 に吊り下げる。



- 鉦 2 セットは、あらかじめ③の袋に入れて、観客から見えないようにしておく。



第1のシーン：仏がどこかにいる気配がする

パフォーマンス A：

- ・ 鉦2セットが入った袋を首から下げて歩く（歩く雰囲気ですり足踏みする）
修行者がゆっくり歩いているような歩き方。



台詞1「仏がどこかにいる気配がする。」

パフォーマンス B：

首から下げた鉦の入った袋を外から触って、鉦をガタガタこすりあわせたり、袋を揺らしたり、叩いたり、お手玉のように軽く投げあげたりして色々な音を出す。



台詞2「人は自分に見えないものに欲をつのらせる。」

第2のシーン

パフォーマンス C:

首から下げた袋から2セットの鉦を取り出し、新聞紙を敷いた机の上に置く。
鉦が鳴らないよう、鉦自体を手で直接持って移す。



第3のシーン：仏が歩いてくる

台詞3「仏が歩いてくる」

パフォーマンス D：

机の上に敷いた新聞紙の上を、以下のように2セットの鉦を足に見立てて歩かせる。2セットを同時に行ったり、片方のセットずつで行ったりいろいろやってみて良い。

鉦同士が当たらないように歩かせる。

鉦を机の上に置くときの鈍い音だけが足音のように聞こえる。



時々、新聞紙からはみだして木の机の上を直に歩かせる。

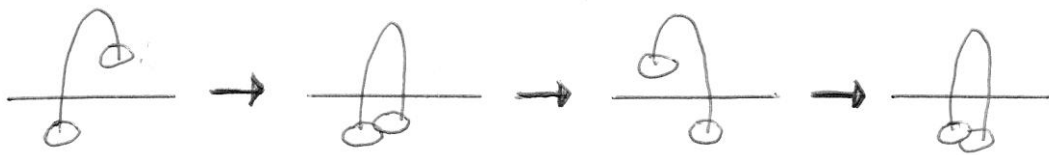
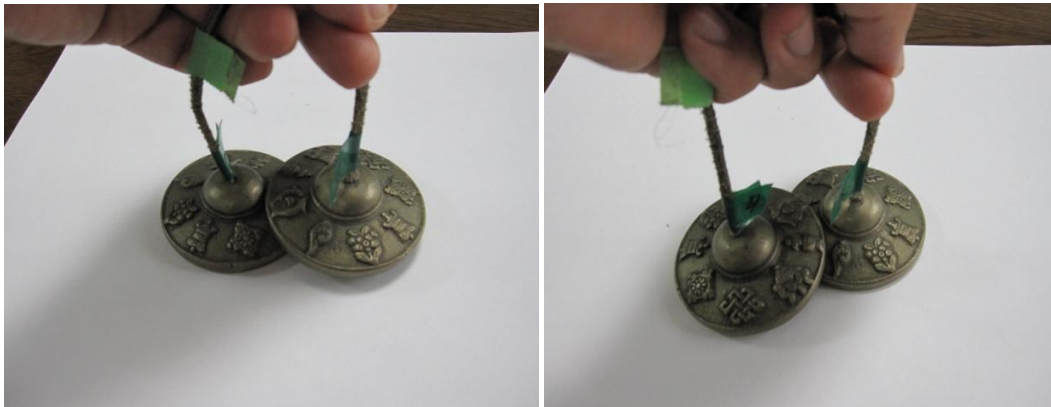


パフォーマンス E :

チーンと鳴ってしまわないように、鉦が机についている時に、鉦同士をガチガチ当たるように歩かせる。

錫杖の先が岩に当たっているような音がする。

時々、新聞紙からはみだして木の机の上を直に歩かせる。



パフォーマンス F:

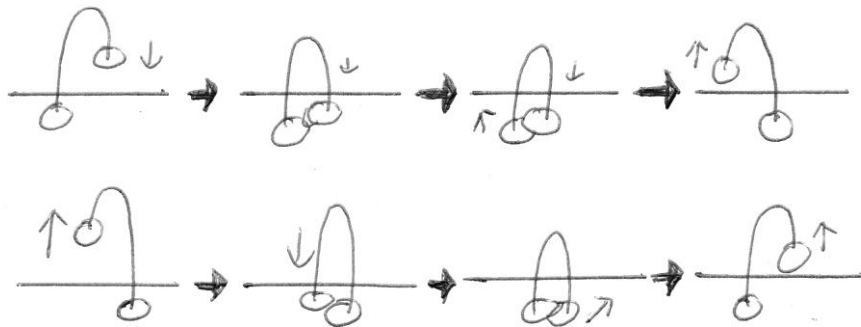
一つの鉦を、下に置いたもう一つの鉦の上に落とし、下の鉦を少し勢いよく引っ張り出してチーンと鳴らせる。

引き出したほうの鉦だけがチーンと鳴るように注意。

これを鉦を入れ替えて交互に歩くような間隔で行う。

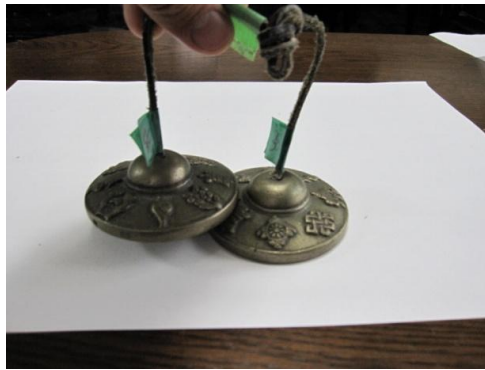


左の鉦を勢いよく引き出すと、左の鉦がチーンと鳴る。右の鉦は下に置いておくので響かない。



パフォーマンス G :

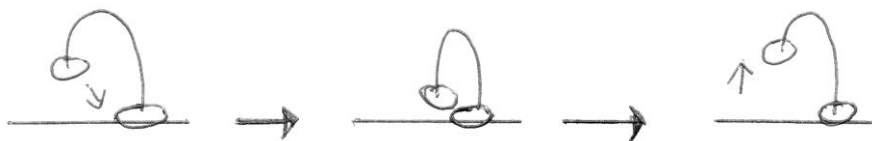
片方の鉦を下に置いたままで、上にあげたもう一方の鉦を、置いている鉦に勢いよくぶつけてすぐに引き上げチーンと鳴らす。



左の鉦を下に置いた右の鉦に当てると左の鉦だけがチーンと鳴る。



左の鉦は当ててすぐ引き上げ、右の鉦は動かさない。引き上げた左の鉦だけがチーンと鳴り響く。



高い位置からゆっくり降ろしたり、低い位置から早く降ろしたり、ぶつけかたに適宜変化を加えるとさらに良い。

上側の当てた鉦をすばやく引き上げ、下に置いている鉦は動かさない。

当てた方の鉦だけが強くチーンと鳴る。

↓

上の鳴り響いている鉦を、ゆっくり降ろして下の鉦に静かに当ててチーンという響きを止める。

↓

二つとも机の上に置く。

↓

下にある鉦だけを勢いよく引き出して上にあげる。引き出す瞬間に上の鉦とこすれてチーンと鳴るようにする。

引き出した鉦は弱くチーンと鳴っている。

↓

引き出した鉦だけを上にあげる。

チーンと弱く鳴っている響きは残しておく。

↓

片方の鉦を下に置いたままで、上にあげた鉦を、置いている鉦に勢いよくぶつけてチーンと鳴らす。

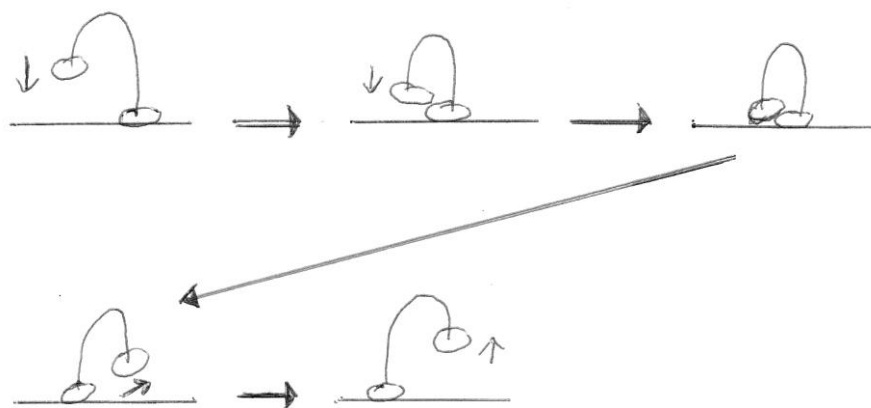
上側の当てた鉦をすばやく引き上げ、下に置いている鉦は動かさない。

当てた方の鉦だけが強くチーンと鳴る。

(最初の動作)

↓

鉦の組み合わせを替えつつ繰り返す。



第4のシーン：仏は全てを聴き、一つ一つに耳を傾ける

台詞4「仏は全てを聴き、一つ一つに耳を傾ける」

パフォーマンス H：

鉦1、鉦2、鉦3、鉦4 のうち2つの鉦をお互いに当ててチーンと鳴らし、鳴っている二つの鉦を時間差を付けて机の上（新聞紙の上）に置いて響きを止める。響かせる持続時間、音を止めるタイミングは、様々に変化を付ける。響いた音の性格によって、長く鳴らしてみたり短く止めてみたり、様々に変化を付ける。当てる鉦の組み合わせで音響は異なる。鳴っている二つの鉦のうち一つの響きを止めると一つの鉦の響きが残る、もう一つも止めると、余韻のある無音が生まれる。引き算の音楽となる。以下の組み合わせを順に行う。

- ・ 鉦1 と 鉦2 を当てる⇒鉦1 を置く⇒鉦2 を置く
(音響の結果は、鉦1 と 鉦2 の響き⇒鉦2 だけの響き⇒無音)
- ・ 鉦1 と 鉦2 を当てる⇒鉦2 を置く⇒鉦1 を置く
- ・ 鉦1 と 鉦3 を当てる⇒鉦1 を置く⇒鉦3 を置く
- ・ 鉦1 と 鉦3 を当てる⇒鉦3 を置く⇒鉦1 を置く
- ・ 鉦1 と 鉦4 を当てる⇒鉦1 を置く⇒鉦4 を置く
- ・ 鉦1 と 鉦4 を当てる⇒鉦4 を置く⇒鉦1 を置く
- ・ 鉦2 と 鉦3 を当てる⇒鉦2 を置く⇒鉦3 を置く
- ・ 鉦2 と 鉦3 を当てる⇒鉦3 を置く⇒鉦2 を置く
- ・ 鉦2 と 鉦4 を当てる⇒鉦2 を置く⇒鉦4 を置く
- ・ 鉦2 と 鉦4 を当てる⇒鉦4 を置く⇒鉦2 を置く
- ・ 鉦3 と 鉦4 を当てる⇒鉦3 を置く⇒鉦4 を置く
- ・ 鉦3 と 鉦4 を当てる⇒鉦4 を置く⇒鉦3 を置く

台詞5「4つの鉦があれば12通りの出会いと別れがあるのである。愛別離苦である。」

第5のシーン：引き算の音楽

パフォーマンスⅠ：

4つの鉦を互いにぶつけ合って4つの鉦が強く鳴り響いている状態を作り、鳴っている音を時間差を付けて順番に机の上に置いて音を止める。
以下の組み合わせを行う。

- ・ 鉦1， 2， 3， 4を鳴らす⇒鉦1， 2， 3， 4の順で音を止める。
音を止めるタイミングは均等な間隔ではなく即興的に様々に変える。

① 4つの鉦を互いに当てて全て強く響かせる



② 4つの鉦は全て机から離して十分に響かせる



③ 鉦1だけを下に置いて響きを止める



④ 鉦2も下に置いて響きを止める



⑤ 鉦3も下に置いて響きを止める



⑥ 全ての鉦を置いて響きを止める



このパフォーマンスによる響きの結果は例えば以下のように図解できる（持続時間の比率は一例であり、魅力的な音の組み合わせの場合は長く聴かせたり、逆アルペジオのように短い間隔で止まっていくようにしたり、感覚的に様々に変えて良い。）

例 1 :

鉦 1 ⇒

鉦 2 ⇒⇒⇒

鉦 3 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 4 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

例 2

鉦 1 ⇒⇒⇒

鉦 2 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 3 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 4 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

- ・鉦 1、2、3、4 を鳴らす⇒鉦 2、3、4、1 の順で音を止める。
音を止めるタイミングは均等な間隔ではなく即興的に様々に変える。

響きの結果は例えば以下のように図解できる（持続時間の比率は一例であり、魅力的な音の組み合わせの場合は長く聴かせたり、逆アルペジオのように短い間隔で止まっていくようにしたり、感覚的に様々に変えると良い）

例：

鉦 1 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 2 ⇒⇒

鉦 3 ⇒⇒⇒⇒

鉦 4 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

- ・鉦 1、2、3、4 を鳴らす⇒鉦 3、4、1、2 の順で音を止める。
音を止めるタイミングは均等な間隔ではなく即興的に様々に変える。

響きの結果は例えば以下のように図解できる。響きを止める間隔は自由に変化をつける。

例：

鉦 1 ⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 2 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 3 ⇒

鉦 4 ⇒⇒

- ・鉦 1、2、3、4 を鳴らす⇒鉦 4、1、2、3 の順で音を止める。
音を止めるタイミングは均等な間隔ではなく即興的に様々に変える。

響きの結果は例えば以下のように図解できる。響きを止める間隔は自由に変化をつける。

例：

鉦 1 ⇒⇒⇒

鉦 2 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 3 ⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

鉦 4 ⇒⇒

台詞 6 「このように、あなたがたのうちの一つでも欠けたなら世界の響きは変わってしまうのである」

第6のシーン：仏は、世界のそれぞれの方向の音を聴いた

パフォーマンス J：

数メートル離れて設置した2つの譜面台に、それぞれ鉦2つのセットをぶら下げる。譜面台の位置は、聴衆から見て方向が変わる程にできるだけ離れて設置するが、奏者が走ってすぐ往復できる程度の距離にとどめる。譜面台1に鉦1と鉦2のセットをぶら下げ、譜面台2に、鉦3、鉦4のセットをぶら下げる。なるべく音を鳴らさないように行う。



譜面台1は、鉦1、鉦2のセットと鈴などがぶら下がっている

譜面台2は、鉦3、鉦4のセットだけがぶら下がっている

台詞7「さて、仏は世界のそれぞれの方向の音を聴いた」

パフォーマンス K:

- ・ 譜面台 1 の鉦 1 と鉦 2 とを当てて鳴らす。



- ・ この余韻が消えないうちに、続けて譜面台 2 の鉦 3 と鉦 4 とを当てて鳴らす。



- ・以下の順番で、鉦を撥として用意した杓文字か箸などで叩く。叩いた後の余韻が消えないうちに次々と叩いていく。叩く間隔は早くした遅くしたり自由にしてよい。結果的に、奏者は譜面台1と譜面台2の間を行ったり来たりしてかけずり回ることになるが、ある時は走り、ある時はゆっくり移動したりというように緩急をつける。

- ・鉦1を叩く
- ・鉦3を叩く
- ・鉦1を叩く
- ・鉦4を叩く
- ・鉦2を叩く
- ・鉦3を叩く
- ・鉦2を叩く
- ・鉦4を叩く
- ・鉦3を叩く
- ・鉦1を叩く
- ・鉦3を叩く
- ・鉦2を叩く
- ・鉦4を叩く
- ・鉦1を叩く
- ・鉦4を叩く
- ・鉦3を叩く



結果的に、別の譜面台にぶら下がった鉦を叩きにいく時は移動時間がかかり、同じ譜面台にぶらさがった鉦を続けて叩く際は移動時間がかからない。

- ・ 譜面台 2 の鉦 3 と鉦 4 とを当てて鳴らす。



- ・ この余韻が消えないうちに、続けて譜面台 1 の鉦 1 と鉦 2 とを当てて鳴らす。



第7のシーン：仏は食べることで生きている

台詞8「仏は食べることで生きている」

パフォーマンス L:

- ・譜面台1に、鉦1、鉦2、鉦3、鉦4を並べてぶら下げる。
- ・その他、鈴などはぶら下げたままで良い。



- ・箸、フォーク、スプーン、シャモジ、オタマ、食事用ナイフなど食事に使う様々なものを撥として両手に急速に持ち替えつつ、並んだ4つの鉦をガムランの音程のある金属打楽器のように叩いて自由に、しかし、忙しく即興演奏する。



何を撥にして叩くかによって鉦の音色とアタックは変わる。

- ・ 2つの鉦の間を撥をすばやく往復させてトリルのようにすることもできる。



- ・ 2つの撥を持って鉦以外の鈴等も含めて極めて活発に叩いて演奏する。



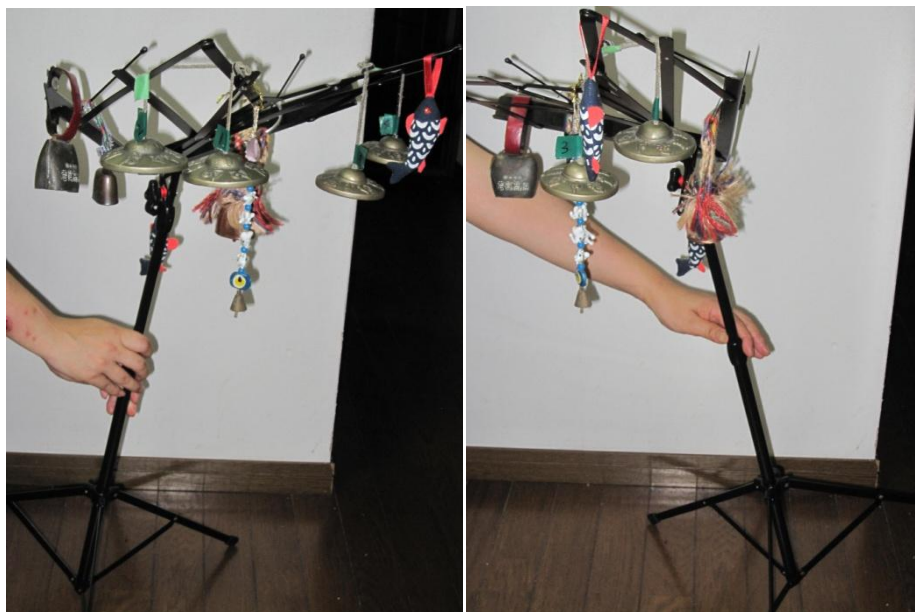
台詞9「人は毎日、食べなければならないので忙しいのである」

第8のシーン：衆生

パフォーマンス M：

譜面台1を、揺さぶって音を鳴らす。

ぶら下がっている鉦、鈴の類ががちゃがちゃと騒々しく鳴る。

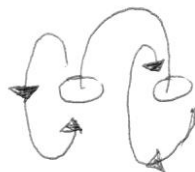
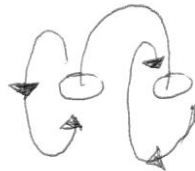
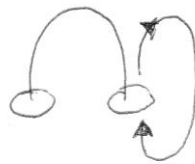
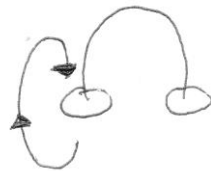


台詞10「衆生が騒がしいこともある」

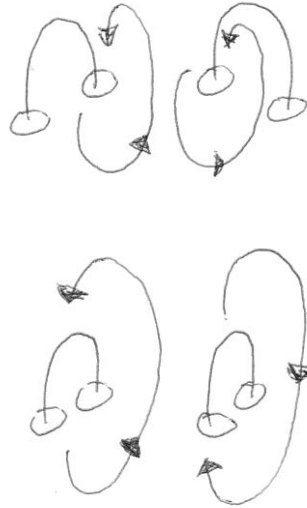
第9のシーン：うねる音

パフォーマンス N：

- ・ 鉦 1、鉦 2 のセットを手に持ち。鳴り響く鉦をお互いに近付けてぐるぐる回せば、うねりが生まれる。
- ・ 鉦 3、鉦 4 のセットを手に持ち。鳴り響く鉦をお互いに近付けてぐるぐる回せば、うねりが生まれる。



- ・ 鉦を1セットずつ両手に持ち、4つの鉦を様々な組み合わせで打ち鳴らし、鳴り響く鉦をお互いに近付けてぐるぐる回せば、うなりが生まれる。



何度も様々な組み合わせで鉦を強く打ちならし、様々な組み合わせでお互いに近付けてぐるぐると回し、複雑なうなりの大きな音響をつくりあげる。

うなる響きの中に繰り返し打ち鳴らされる鉦の音が重なり、さらにうなりを重ねる。

パフォーマンス 0 :

- ・ 4つの鉦が鳴った余韻を、鉦を互いに近付けてぐるぐると回すことで最大限に引き延ばし、余韻のうなりで空間を静かに満たす。
- ・ 4つの鉦をさらに静かに打ち鳴らして、ぐるぐる回してうなりを十分に聴かせる。

第10のシーン：仏は世界に風を送る

パフォーマンス P：

- ・ 譜面台1に、4つの鉦を、少しでも揺れるとお互いの鉦が当たって音が鳴るように近付けて静かにぶら下げる。



- ・ 団扇で、必死に風を送り、ぶら下げた鉦や鈴を鳴らして疲れ果てる。



台詞11「仏は世界を動かすために風を送っている」

第 1 1 のシーン：仏自身もまた風に吹かれて去っていく

パフォーマンス Q：

- ・両手に鉦のセットを持って、静かに鳴らしながら会場から出ていく。



上演にあたっての留意点

実際に用意された鉦や、演奏時間、会場と観客の雰囲気などにより、適宜、自由に変化を加えたり、パフォーマンスを加えり、省略をしたりして良い。特に、用意された鉦のセットの個性により、響きの魅力的な鉦の組み合わせ、魅力や差異の乏しい組み合わせなどの発現が変わってくる。あまり魅力や差異のない響きとなる鉦の組み合わせは適宜、省略したり短時間にするなどする。

鉦のセットの個性が乏しく、鉦の組み合わせによる響きの差異が小さい場合、とくに、パフォーマンスⅠなどは退屈になってくる危険があるので、お客様の顔色と自分の興味の持続で、適度に組み合わせを省略したり緩急をつけたりすると良い。

パフォーマンス N、O は特に、用意した鉦が、うねりによって、響きが長く持続し、インパクトのある響きが形成されることが必要である。

鉦の選択、入手が重要となる。

ちなみに作曲者の用意した鉦は、ネパールで購入したものである。

鉦を鳴らす順番は、この楽譜どおりに厳格に守らなくても良い。
そもそも鉦に付けてある番号が適当に付けたものである。

パフォーマンスは、ゆるやかで整然とした儀式的な速度と落ち着きをもって行ったり、非常に激しく次々に行ったり、忙しくバタバタと落ち着きなくおこなったりと、その都度、響きの性格をよく聴きながら、飽きないように、緩急をつけて行う。

用意する鉦、譜面台、袋等は、写真のものは一例にすぎない。

より魅力的な違った響きの鉦、視覚的にも美しい鉦などを世界から見つけてくれば、より魅力的なパフォーマンスが可能であるはずだ。

また、より上演に使いやすい準備物類もあると思う。

撥として使う箸やフォークやスプーンやしゃもじ等も、用意した鉦との組み合わせで、より魅力的な響きの生まれるものを探すと良い。

上演にあたっては、作曲者に、演奏会概要を連絡をいただけますようお願いします。

連絡先：近藤浩平（こんどう こうへい）

R5656m@aol.com <http://koheikondo.web.infoseek.co.jp/>

見つからない場合は「近藤浩平」で検索してください。